令和元年度 学校経営方針

平成 31 年 5 月 14 日
東大和市立第五中学校長

《東大和市》
- 東大和市の教育に関する大綱
- 東大和市教育委員会の教育目標
- 第二次東大和市学校教育振興基本計画

《教育目標》
- 正しい判断ができる(判断力)
- 協力し実践ができる(協力･実践)
- 自他を尊重する(敬愛心)

《東大和市教育委員会主要施策》
- 確かな学力(学力向上、読書教育 等)
- 豊かな人間性(健全育成、職場体験 等)
- 健康･体力(健康教育、体力の向上)

目指す学校像

- 生徒が主体的･対話的で深い学びに努め、「できた状態」「分かった状態」「生かせる状態」を実践できる魅力ある学校
- 「考えて楽しい」「皆で意見を交わして楽しい」心が弾む授業を通して、今日が楽しく明日が待ち遠しい活力あふれる学校
- IMO-ZO CS(コミュニティ･スクール)を導入し、学びのキャンパスとしての地域と連携･協力を深め信頼される学校

教育課程

柔軟なカリキュラムの編成を通した学力の向上

- 定期考査の廃止【新規】
  単元や題材など内容や時間のまとまりの中で主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり振り返ったりして、自の学びや変容を自覚できるよう単元テストを導入
  (1)単元テスト
  全教科において単元のまとまり毎に振り返りのテストを授業中に実施し、知識の定着を図る。
  (2)一斉単元テスト
  全教科において単元のまとまりなどを踏まえ必要に応じて任意の時期に同学年の 3 学級で同時に実施する。
  (3)総括単元テスト
  国語、社会、数学、理科、外国語の 5 教科を各学期の最後に実施する。単元テストの総復習の位置付けとなる。
- 全員学級担任制の導入【新規】
  学年の全教員を学級担任として 1 学級に 2 人配置し、幅広い視点から生徒を観察することにより、いじめや学びのつまずきの未然防止･早期発見に努める。
- 書き写し読書
  始業前の帯時間の中で、優れた文学作品等を書き写すことを通して「読むこと」「書くこと」の力を高め、各教科の素地となる読み取る力をはぐくむ。
- ムサビる！
  才能を伸ばすための多様な教育の充実のために、夏季休業中に武蔵野美術大学と連携した学校を美術館にする取組みを実施する。
- ◆小中一貫教育の更なる推進
  (1)三校交流会(小学校の教員と学習･生活指導観の共有)
  (2)「学びのチャート図(仮称)」の作成【新規】
  小学校と協働して算数･数学と国語の小 1～中 3 までの学習の系統図を作成し、学びの一貫性を「見える化」する。

生活指導

地域から信頼される生徒の育成

- 「生活指導の手引き」の策定【改訂】
  別冊「生活指導の手引き」とともに個々の教員の経験値に依存しない組織的な生活指導を実践
- 「授業と生活指導チェックカード」の実施
  全教員が毎月、本チェックカードを用いて自らの学習指導･生活指導を振り返り、指導力を高める。
- 「生活指導報告書」作成の徹底
  問題行動の指導の経過･報告を全員が作成し供覧することを通して全教員で情報を共有し、一人一人の教員が問題行動への当事者意識をもつ。
- ジュンカイ(巡回)ダーによる全学級の監護
  教員がペアで校内を毎時間巡回し、問題行動の未然防止や生徒の安全確認に努める。
- チーム医療型の特別支援教育の取組み【改編】
  医療現場の取組みである「チーム医療」のシステムを導入し、巡回指導教員や教育相談スーパーバイザー、教育心理相談員、スクールカウンセラー、特別支援学級担当教員、主任養護教諭、学年主任、保護者が連携して通常の学級に在籍する生徒の困り感の解消に取組む。
- 歯磨きウィークの通年化
  口腔衛生の習慣化に取組むことを通して虫歯罹患者とインフルエンザ罹患者の減少に努める。
- ◆FSS：First Step School
  (1)入学する第 6 学年の児童を対象にして春季休業中に FSS を開設し、4 日間のプレ授業の体験を通して中 1 ギャップの解消を図る。
  (2)外国語のプレ授業では「第五中学校グループ外国語教育モデルカリキュラム」を用いて小･中学校教員による授業を行う。

進路指導

学力の向上と社会性の向上の推進

- 学力の向上
  (1)「家庭学習記録シート」【改訂】
  単元テストの導入に伴い教科担任が指示する宿題にめあてをもたせ、家庭学習の必然性を高める。
  (2)中学生の教科学習の取組み
  ①授業の受け方の習得
  ②「家庭での 7･2･1」の推進
  生活のリズムを身に付け学習への主体的な取組みを推進
  7…睡眠時間を 7 時間確保
  2…家庭学習時間を 2 時間確保
  1…登校 1 時間前に起床
  (3)日本漢字能力検定、実用英語技能検定、実用数学技能検定の受検を推奨
  (4)追試･学習会
  単元テストの不合格者を対象にした放課後の学習会
  (5)IMO-ZO 学習教室(地域未来塾事業)
  塾講師による放課後の数学の補習
  (6)各教科の授業改善(情報交換)
  全教科で学力向上の 7 つのポイントを共有する。
  ⇒「始業の挨拶」「ねらいをつかむ」「自分の考えをもつ」「友人と学び合う」「全体で高め合う」「振り返る」「終業の挨拶」
- ◆社会性の向上
  (1)学校生活の自己評価
  各学期(3 回/年)、生徒が自らの学校生活を振り返り社会性の習得状況を振り返る。
  (2)職場体験
  地域の事業所での体験を通してコミュニティでの社会性を向上させる

IMO-ZO CS

◆◇◆ ライフ･ワーク･バランスの推進 ◆◇◆

《取組みの方向性》
- 一人の教員の努力から組織の教員の協力への意識改善を推進
- 休暇の取得は自己啓発と体調管理に資することへの意識改善を推進

《具体的な方策》
- 定時退勤日の設定(2 回/月)
- Anniversary 休暇の設定(2 回/年)
- マイ定時退勤日の設定(1 回/週)
- 定時退勤ウィークの設定(2 回/夏季休業中)